



岡田理子「春の訪れ」 F10（水彩）

<作者コメント>

春らしい軽やかな感じと紳士物の重々しい感じの対比が出ていたら良いと思います。

<喜田コメント>

花の存在感がイマイチ弱いです。

出来ればもう少し花のボリューム感をだし、画用紙の白を使って花卉の色を出せばいいのですがね。

ビンテージのジャケットも、帽子も椅子も素敵です。

この絵を見ていると古い物語の向こうから音楽が聴こえてきます。昔、聴いた歌です。

「おじいさんの古時計」「大きな古時計」「懐かしき愛の歌」みんな素敵な歌です。



遠矢慶子 「さくら満開」 F8 (水彩)

<作者コメント>

三浦半島衣笠山の近く、左側に京浜急行が走っている桜のスポットです。桜は華やかで妖艶ですけど、旬の見ごろはあっという間に終わってしまいます。あまりはっきりしない絵ですが、これ以上無理かな？

<喜田コメント>

桜は難しいモチーフですが、とても上手く描けています。感心しました。桜をこんなに上手に描く人はそんなに多くはありません。構図も素晴らしいと思います。

「桜は影で描け」と言われます。つまり、色彩や花びらの形や木の形・枝の形などにこだわって正面から写生するのでなく、薄いピンクの下地に、影の部分を描くことによって桜の存在感を出せ、ということだと思います。

この作品で、中景の桜はまさに「影で表現している」と言えます。特に中景の桜と桜の間の暗い部分の表現が秀逸です。この暗い部分によって、桜がその存在を強く主張しています。

近景の大きな塊の桜については、色々議論があると思いますが、「影の部分」をもう少し大胆に挿入したら如何でしょうか？

遠くの家々の向こうに大きなマンションがあるのでしょうか？ これは中途半端です。むしろ春霞にけむる山並みとか、空と雲の織り成す面白さを描いた方がいいと思います。



黒田重雄 「ゆり習作」 F6 (水彩)

<作者コメント>

見事な百合のモチーフでした。ピンクの花一枚一枚のグラデーションとつぼみの色の变化、葉の色の差をきちんと描くのを心がけました。

相変わらず背景には苦戦です。コツが掴めないままが続いています。

<喜田コメント>

4月の「ユリ」の作品ありがとうございました。

立派な作品です。黒田さんは制作時に心がけるポイントをいくつか意識して描いていることが素晴らしいと思いました。

特にコメントにあるように、ユリの花の色彩のグラデーションとか蕾の緑と葉の緑の差、そして開花した花卉の詳細の表現など、注意深く観察していて、なかなか余人には真似ができません。花の部分は大変よくできているのですが、花瓶をもう少し濃く・暗く・力強く描いたらさらに良くなると思います。



武智康子 「ジョウロに挿した百合の花」 F4 (水彩)

<作者コメント>

ジョウロにさした百合の花が、題材として構成がとてもユニークで面白いと思ったので、そのまま描きました。ただ百合は、いつ描いても難しいです。今回は、少し百合の花の感じを出せたとおもいます。実際の花にはない色も加えてみました。バックは、思考錯誤の上、喜田先生の作品にヒントを得て描きました

<喜田コメント>

この作品の一番良いところは「構図」です。ジョウロの首の方向と花々の重なりの方がどちらも左上方に伸びています。一般的には構図上、同じ方向に延びる2つの要素があるということは、問題とされますが、この作品に限っては、何の違和感もありません。不思議です。むしろ、ジョウロと花々が何かを主張しているようで、面白さが伝わってきます。つまり、構図的にジョウロと百合の花の関係がとてもユニークで面白いのです。百合の花弁の形状や色は実物とは幾分違って、写実的観点から言えば問題ありと言われるかもしれませんが、1枚の絵として見た時には何も問題ありません。むしろ面白い表現だと思います。まるで、ジョウロの舞台上で百合の花々がダンスを舞っているように感じます。背景も問題なし。改良点は「ジョウロの色を部分的にもっと濃くすること」です。



筒居隆一 「クリスマスローズ」 F4 (水彩)

<作者コメント>

久し振りの対面講座、皆様花の写生だったとのことですので、私も冬の寒さを越した、クリスマスローズを描いてみました。クロスの模様が、豹柄（ひょうがら）になってしまいました。

<喜田コメント>

この作品、筒井さんの個性が発揮された良い作品ですね。筒井さんの個性は既に定着しています。作品を観れば「これは筒井さんの作品だ」ということがすぐにわかります。画家としてのベースが出来てきたということです。

花瓶に活けられたクリスマスローズともう一種類の花（名前を知らない）の「葉と茎と花の表現（色・形・関係）」が強くて明快であることが、この作品の基本です。

白くて柔らかい敷物とひょう柄の黄色い敷物と背景の暗い朱色が作品を面白くしています。修正するところはありませんが、さらに作品を良くするためには、白い敷物の沿面の描きかたを、ギザギザでなくてストレートな曲線で造形的に描いた方が良いでしょう。



竹前義博 「ユリ」 F6 (水彩)

<作者コメント>

久しぶりに新橋バルーンにて対面でユリの花を描きました。皆で集まって一緒に描くのは楽しい。早く新型コロナが終息するのを望む。

ユリの花も難しかったが、ユリの花を引き立てるための背景はさらに難しかった。背景は自然なグラデュエーションにしたかったが。

<喜田コメント>

ピンクの百合の花が実によく描かれています。花弁に広がる細かい斑点やオシベの形などをよく観察して描いたと思います。ジョウロに投げ入れられたユリもモチーフとして、とても新鮮味があって面白いと思います。

竹前さんが苦労された背景は水彩独特の「にじみ」を使って面白く描けたと思います。竹前さんは「にじみ」の手法を先月から2回続けて活用して、すっかり会得しましたね。苦労しただけの事はあって、背景が色彩・濃淡・にじみ模様が面白いと思います。

改善するところは

背景の変化があたかも「雲」のごとく変化に富み面白いので、つい目が奪われます。背景に比べて本体の「ジョウロと百合の花」が弱いと思います。「ジョウロと百合」(特に花弁)をもう少し強く描きこんだら、もっともっと良くなると思います。恐れずに思い切って主役の百合の花を描きこんでください。



月川りき江 「セーヌ川を行き交う遊覧船」 色紙（24 cm x 27 cm）ちぎり絵

<作者コメント>

空に使うブルーの新聞紙が小さいものしかなくて、白の色紙をそのまま使いました。ところが出来上がったその日の新聞に素敵なブルーがありました。エッフェル塔や兩岸の緑などを、貼ったあとなのでそれを避けてブルーを貼るのに苦労しました。最初なら楽でしたのに。また、エッフェル塔も、つぎはぎだらけで不本意です。

<喜田コメント>

今月は「パリ風景」ですね。セーヌ川を行き交う遊覧船、セーヌの右岸にパリのシンボル「エッフェル塔」が見えます。今月はパリ風景らしく色彩豊かにまとめましたね。まず、色彩的なことから、兩岸の緑はいつものように多彩な緑を使い分けて立派です。次にセーヌ川の水面は3段に色分けして変化を持たせたところも素晴らしいと思います。空は地平線近くのミルク色から天空に向けてブルーに変化するグラデーションが最高です。この作品で一番面白いのが遊覧船の表情です。右には4艘の窓付き遊覧船があたかも曳航されているように描かれ、左岸には係留されている水上生活船が描かれています。対照的です。そして中央には多くの乗客を乗せたオープン型の遊覧船がゆったりと進んでいます。色とりどりの洋服を着た乗船客を描いているのが大変面白いと思います。この船を思い切って大きく近景に描いたら構図的には最高なのですがね。写真とは違う構図になりますが。全体的なアドバイスですが、構図が少し狂っていると思います。次の3点を写真でチェックしてみてください。①左岸の角度は適正か？ ②エッフェル塔以外の建造物はないのか？ ③エッフェル塔は大きすぎないか？



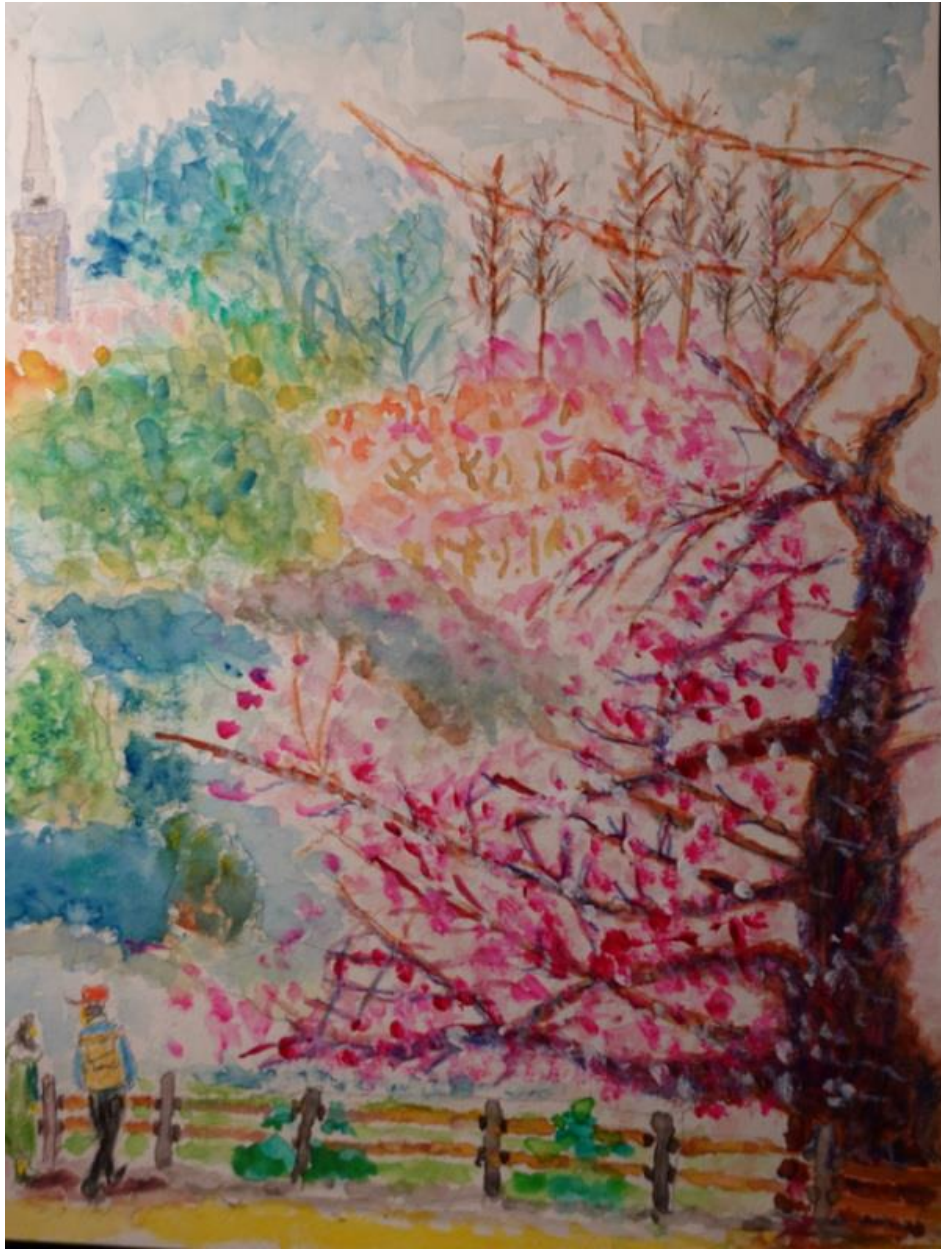
若林哲史 「菅生緑地の桜」 F6 (水彩)

<作者コメント>

コロナ下、一時、桜の花見に心と体のリフレッシュ。人物描写の練習をかねて、人の表情にフォーカスしました。難しい。

<喜田コメント>

4月度の作品にふさわしい楽しそうなサクラの下の宴会風景、ありがとうございました。若林さんはもとより桜はお上手ですが、人物表現もなかなかのものです。しかし、ここでは人物を丁寧すぎるほど丁寧に描いたので、人物の動きが弱くなりました。出来ればもう少し人物を手早く動きのある様に描いて、雰囲気を出すことに留意すれば、絵にリズムと旋律が生まれます。高い挑戦ですが、トライしてみませんか？ 若林さんなら出来ると思いますよ。



井上清彦 「新宿御苑の満開の桜」 F4 (水彩・色鉛筆)

<作者コメント>

桜の表現が難しい。遠景・中景・近景の表現分けができたか疑問だ。ドコモタワーはフェイクです。

<喜田コメント>

満開の桜、気持ちが乗り移ったような一気呵成の表現ですね。赤い「桜の木」1本だけでこの作品は完成しています。

手前の柵・後ろ向きの親子の添景人物・中景や遠景の深い緑の森、そして、極めつけが新宿のマスコット「とんがり帽子のドコモタワー」これらはすべて脇役ですが、作品を完成するにはどれも大切なコマです。これらの駒を上手に使っていますね。フェイクでも「ドコモタワー」があることで、新宿御苑であることがわかります。

構図、色彩、リズム、全てにおいて井上さんの作品は、観る者をワクワクさせます。面白いです。



喜田祐三 「ゆり」 F4 (油彩)

<作者コメント>

久しぶりに対面式教室が再開した。対面式「あとりえー丁」は本当に久しぶり。
前日に自宅の近所にある「東京総合卸売センター」に行って、花の卸問屋からモチーフ用にピンクの百合を数本安く分けてもらった。
百合の花弁はデリケートなので、痛まないように大切に新聞紙に幾重にも巻いて、当日、会場「ばるーん」に持って行った。会場に到着して、花瓶を忘れたことに気がついた。
給湯室・トイレ・事務所・食堂等探し回ったが花瓶が見つからなかった。
会場の裏にある掃除道具置き場に打ち捨てられてあった古びたプラスチックの「ジョウロ」を見つけた。それを花瓶代わりに使うことにした。ピンクの百合をジョウロに挿してみると面白い構図が出来上がった。私は百合1本を床の上に放り投げて、上から描いてみた。ユニークな構図になった。